

『論文発表』投稿規程及び執筆要領

- 「論文発表」として発表される論文は、『秋期研究大会発表集録』に掲載されます。
- 原稿締切り 2023 年 7 月 20 日（木）
 - ※締切りの日時を過ぎた原稿は受け付けできませんので、ご注意ください。
 - ※オンライン投稿で、著者名・所属入りの WORD ファイル、著者名・所属入りの PDF ファイル、著者名・所属無しの PDF ファイルの 3 点を提出して頂きます。詳細は下記に従ってください。
- ページ数 「論文発表」 A4 で 8 頁

I 投稿規程

1. **投稿資格** 投稿される研究論文の著者（連名の場合は筆頭著者）は、日本数学教育学会の個人会員とする。
2. **投稿論文** 投稿論文は、算数・数学教育についての基礎的・科学的な研究論文であり、日本語または英語で書かれた独創性のある未発表のものに限る。
3. **論文の長さ** 投稿論文の長さは、図表や資料等を含めて 8 頁（1 頁 22 字×2 段×42 行）で要約を含むものとする。
4. **論文の作成** 論文の作成については、II に定めた「執筆要領」による。
5. **論文の投稿** 論文の投稿に際しては、必ずテンプレートを利用して、著者名・所属入りの WORD ファイル、著者名・所属入りの PDF ファイル、著者名・所属無しの PDF ファイルの 3 点を作成し、オンライン投稿する。送付の仕方に関する詳細については、III の「提出方法」の各項を参照のこと。
6. **論文の査読基準** 研究論文は、数学教育学論究の査読基準を準用し、以下の観点から査読を行う。
 - ア. 投稿規程及び執筆要領を満たしているか
 - イ. 関連する先行研究を十分に踏まえており、独自性が認められるか
 - ウ. 研究目的は明確に記述されているか
 - エ. 研究方法は目的の達成にとってふさわしいか
 - オ. 研究の結果が優れており、その考察は十分であるか
 - カ. 論文の構成・論旨が適切であるか

7. **論文の審査等** 研究論文は、第6項の基準で、論究部が委嘱した3名の審査委員による査読を行い、その結果に基づいて秋期研究大会プログラム委員会が採否等の決定を行う。査読結果については以下の通りとする。

- ・論文発表採択（合）：これは、秋期研究大会で「論文発表」となります。また、大会当日の質疑を経て、加筆修正の上、『数学教育学論究』に掲載される論文です。
- ・論文発表採択（条）：これは、秋期研究大会で「論文発表」となります。また、大会当日の質疑を経て、加筆修正・再査読の上、『数学教育学論究』に掲載される候補の論文です。
- ・口頭発表8ページ採択（発8）：これは、「論文発表」論文としては不十分であるため、秋期研究大会で「口頭発表（発8）」となります。また、大会当日の質疑を経て、内容の修正・改善を適切に行っていけば、『数学教育学論究』あるいはその他の学会誌への掲載が見込まれます。（新規）
- ・口頭発表4ページ変更（発4）：これは、内容・構成等からみて、冗長な記述や不必要な記載が見受けられ、大幅な修正が必要であるため、秋期研究大会で「口頭発表（発4）」への変更となります。
- ・ポスター発表変更（ポ）：これは、内容・構成等からみて、冗長な記述や不必要な記載が見受けられ、大幅な修正が必要であり、研究のアイデアを大会参加者と自由に協議することが適切であるため、秋期研究大会で「ポスター発表」への変更となります。

また、口頭発表（発4）あるいはポスター発表（ポ）に変更となった場合、「口頭発表」（4頁）または「ポスター発表」（1頁）に修正して、審査を経て発表することができる。

なお、査読の結果は9月上旬に論究部長名の文書で連絡する。口頭発表（発4）あるいはポスター発表に変更となった原稿は、9月22日（木）必着で事務局までオンライン投稿すること（著者名・所属入りのWORDファイル、著者名・所属入りのPDFファイル、著者名・所属無しのPDFファイルの3点を送付する）。（上の文書の通知から口頭発表（発4）あるいはポスター発表の原稿提出までは、あまり日数がないので注意すること。）

8. **著作権の帰属** 掲載された論文の著作権は、別に定めた「著作権規程」に基づき、日本数学教育学会に属するものとする。
9. **二重投稿の禁止** 投稿した研究論文を他学会で発表したり、同時期に他学会誌等へ投稿したりすることはできない。
10. **筆頭著者としての発表件数の制限** 筆頭著者としての発表は、論究部会の決定により、論文発表、口頭発表、ポスター発表を通して1件のみとする。
11. **異議の申し立て** 投稿者は、投稿論文の査読結果について異議がある場合、学会事務局（論究部宛）に対して文書で申し出ることができる。その取り扱いは論究部で決定する。

II 執筆要領

- 1. 原稿の様式** 必ずホームページ掲載のテンプレートをダウンロードして使用すること。 原稿は A4 判の縦置き横書きとし、22 字（字送り 10.35p）42 行（字送り 16.8p）の 2 段組で作成する。別紙の論文発表様式、「論文執筆における引用の仕方、図表の転載、及び引用・参考文献の記載形式」、サンプル様式を参照して執筆する。

本文のフォントは、MS 明朝体 10.5 ポイント、見出しは MS ゴシック体 10.5 ポイントとする。句読点は「、」と「。」を用いる。英字については Times New Roman を使う。余白の長さは（上 30mm、下 18mm、左右 20mm）とする。書式を逸脱した原稿は掲載できなくなるので、注意すること。
- 2. 標題の字数と書式** 標題は 40 字以内とする。副題がある場合、副題は 30 字以内とする。また、標題は MS ゴシック体 18 ポイント、副題は 14 ポイントとする。
- 3. 要約の作成** 要約は 460 字（46 字 10 行）以内とし、研究の目的、方法、及び、主な結果が分かるように簡潔・明瞭にまとめる。
- 4. キーワードの作成** キーワードは 3 つ以内とし、合計で 15 字程度とする。
- 5. 文体** 日本語の文体は「である」調とし、常用漢字ならびに現代かなづかいを用いること。
- 6. 見出し番号の付け方** 章、節、項、等は番号と標題をつけ、系統立てて配列する。見出しの番号は、次の順とする。

章の見出し番号 1, 2, ..., 節の見出し番号(1), (2), ..., 項の見出し番号①, ②, ...
- 7. 表・図の番号** 表・図の番号は、それぞれ、表 1, 表 2, ..., 図 1, 図 2, ... のように通し番号をつけ、表や図の標題とともに入れる。表の通し番号と標題は表の上側に、図の通し番号と標題は図の下側に書くものとする。
- 8. 引用の仕方、図表の転載、及び引用・参考文献の記載形式** 次の URL に定める「論文執筆における引用の仕方、図表の転載、及び引用・参考文献の記載形式」をよく確認し、それに従う。引用・参考文献のフォントを小さくしたり行間を詰めたりすることは認められない。

https://www.sme.or.jp/wp-content/uploads/2023/01/jsme_reference_style_20230117.pdf
- 9. 表・図等の扱い** 冊子体（別注）作成において、86%に縮小するので、縮小した後でも十分読める大きさを確保する。また、論文データをつなげて発表集録を作成する際、書式が崩れる可能性があるため、フォントサイズ等、変更しないで下さい。表・図が 2 段組の一方の段に収まらない場合は、2 段分使用すること。
- 10. 付記、謝辞及び注の記載の仕方** 付記、謝辞、注がある場合には、付記、謝辞、注、引用・参考文献の順にする。科研などの助成金への謝辞は、「謝辞」ではなく「付記」として掲載すること。実質的な謝辞がある場合には「付記」とは別立てとして「謝辞」を設けること。「注」の形式は特に問わないが、注の対応関係が分かるように記載すること。また、フォントを小さくしたり行間を詰めたりすることは認められない。
- 11. 英文での原稿執筆** 以下の 4 点に留意の上、執筆する。
 - ① 日本語バージョンの執筆要領を原則とする。なお、本文の基本フォントは Times New Roman の 12 ポイントとする。
 - ② 2 段組は行わずに執筆する。なお、余白等は日本語バージョンに従う。また、1 頁の行数

は日本語バージョンと同様に 42 行とする。

③ 要約は、日本語バージョンに従って、その部分を日本語で作成する。

④ 論文のタイトルについては日本語タイトルも作成の上、オンライン投稿システムに入力すること。

12. **ページ番号** 原稿にはページ番号を付さないこと。

※ 書式の改変は一切認められない。上記 1～11 の要領に従っていない場合は、その時点で「不採択」と判定される場合があるので注意すること。

III 提出方法

1. 提出方法

テンプレートを利用して「著者名・所属入りの WORD ファイル」「著者名・所属入りの PDF ファイル」「著者名・所属無しの PDF ファイル」を各 1 部、3 つのファイルを作成し、参照ファイルとして投稿する。

2. 論文原稿ファイル名

ファイル名は以下の通りとする。

著者名・所属入りの WORD ファイル：R_名前.doc (または docx) (例：R_数学太郎.docx)

著者名・所属入りの PDF ファイル：R_名前 (有) .pdf (例：R_数学太郎 (有) .pdf)

著者名・所属無しの PDF ファイル：R_名前 (無) .pdf (例：R_数学太郎 (無) .pdf)

※ 分科会の希望については、既に発表申込み時にお願いしていますが、変更がある場合は、投稿時に希望分科会を入力して下さい。

<分科会>

1. 数学教育学論，研究方法論
2. 教育課程（目標，評価）
3. 問題解決（数学的な考え方，指導法）
4. 教授・学習過程
5. 数学的モデル化
6. 数と計算・代数
7. 図形・幾何，測定
8. 関数
9. 確率・統計
10. 言語とコミュニケーション
11. 証明（説明，論証を含む）
12. テクノロジー
13. 数学教育史，数学史の教育活用
14. 教師教育
15. 国際協力
16. その他

3. **問合せ先** Eメールによる問合せは、次の事務局宛にお願いします。

日本数学教育学会第56回秋期研究大会実行委員会事務局宛
jsmeautumn56@sme.or.jp

IV 秋期研究大会「論文発表採択」論文の大会後の論究誌等への投稿について

秋期研究大会で審査の結果「論文発表採択」として判定され、大会後に論究誌等へ投稿する論文については、以下のように取り扱います。

(1) 秋期研究大会の判定と『数学教育学論究』に投稿する論文の種類

- 論文発表採択(合):審査時のコメントと大会当日の質疑をふまえて、若干の加筆修正の上、『数学教育学論究』に掲載される論文
- 論文発表採択(条):審査時のコメントと大会当日の質疑をふまえて、加筆修正の上、論究部幹事による再査読を経て、『数学教育学論究』に掲載される候補の論文

(2) 『数学教育学論究』への投稿論文は、論文発表採択(合)(条)論文の内容に基づくもので、論文の長さは8~12頁とする^{*}。本文、目次、図表、注、参考文献は頁数に含まれ、資料、要約は含まれない。論文の長さが12頁を超えた場合は、通常の研究論文として取り扱い、通常の研究論文と同じ審査体制で査読を行う。査読を経て修正の過程で12頁を超えた場合も、同様に扱う。

^{*}『数学教育学論究』の投稿規程では論文の長さは10~20頁とされているが、秋期研究大会「論文発表採択」からの投稿については8,9頁のものも認める。

(3) 執筆方法については、『数学教育学論究』の「投稿規程及び執筆要領」に従う。秋期研究大会時の審査コメントとそれを踏まえた論文の修正箇所の一覧も、修正対応表として併せて提出する。大会当日の質疑をふまえて修正した場合は、その質疑と修正の内容も修正対応表に示すこととする。

(4) 『数学教育学論究』への投稿期限は、秋期研究大会が終了してから2ヶ月とし、それ以降は通常の研究論文の投稿として扱う。

(5) 著者の希望に応じて『数学教育学論究』ではなく『算数教育』あるいは『数学教育』に投稿してもよいものとし、その場合は各学会誌の取り扱いに従う。各学会誌の投稿規程及び執筆要領に従うとともに、上記の修正対応表も提出し、投稿画面の連絡事項の欄に秋期研究大会「論文発表採択」からの投稿である旨を記載すること。